

1. 生育状況

出穂期は8月9日頃と予想しています。今後、高温多照が続くと早まる可能性があります。

◆◆◆晩植生育調査結果(7月19日調査)◆◆◆

移植日 (月/日)	幼穂長 (mm)	出穂予想 (月/日)
5/21	2.8~4.5	8/9

2. 今後の栽培管理

1)倒伏について

中干しが不十分で水を溜め続けた圃場では、下位節間の伸長が確認されています。また、昨年倒伏したほ場で草丈が長い場合は倒伏軽減剤の使用を検討して下さい。

● 倒伏軽減剤

薬剤名	散布量 (10a)	使用時期	使用回数	散布時の注意事項
スマレクト 粒剤	2~3kg	出穂前	1回	○湛水状態で均一に散布する。 ○散布後5日間は、落水やかけ流しはしない。
		15~10日		
ビピフル 粉剤DL	3~4kg	出穂前	1回	○まきムラ、重複散布をしない。 ○イネの茎葉部に均一に散布する。 ○降雨直後、降雨が予想されるときは控える。
		10~5日		

2)基幹防除について

斑点米カメムシ類について注意報が出されています(7月14日カメムシ多発注意報)。特に飛翔性カメムシが多いことから、ほ場への侵入は長引くと懸念されます。出穂後2回の防除を徹底しましょう。

●通常の場合

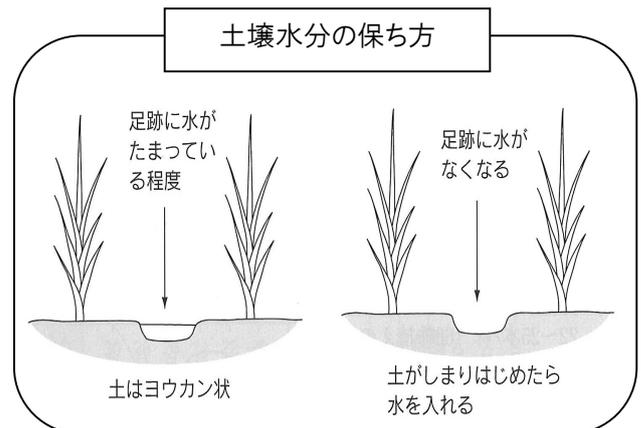
区分	散布時期	薬剤名	10a当り 散布量
1回目	8月7~11日	サジェスト微粒剤F	3kg
2回目	8月14~18日	ビームスタークル微粒剤F	3kg
随時	8月21~25日	キラップ微粒剤F	3kg

※ほ場により出穂期が異なりますので、出穂期を確認して適期防除に努めてください。

(成熟期:平年9月17日頃)

3)水管理

- (1) 間断通水を徹底し、根の活力維持と出穂後の登熟向上を図りましょう。
- (2) 特に、登熟初中期(出穂後6~20日頃)に高温と水分不足が重なると、乳白粒・胴割粒の発生を助長します。間断通水の間隔を短くし(3日おき→1~2日おき)、足跡に水が残る程度の飽水状態を保って下さい。また、用水が



十分に確保される地域では、夜間通水を行いましょう(下図)。

- (3) 台風の接近や通過が予想される場合は、事前にほ場への入水を行い、フェーンや強風による被害の軽減を図って下さい(台風の通過後は速やかに排水して下さい)。
- (4) 高温となる日中の湛水は根を痛めるので避けて下さい。通水は夕方か朝方とし、根の健全化に努めましょう。
- (5) 集落ぐるみで計画的な水利用に努めて下さい(溝切りの溝に水を通すなど、効率的な水利用に努めましょう)。

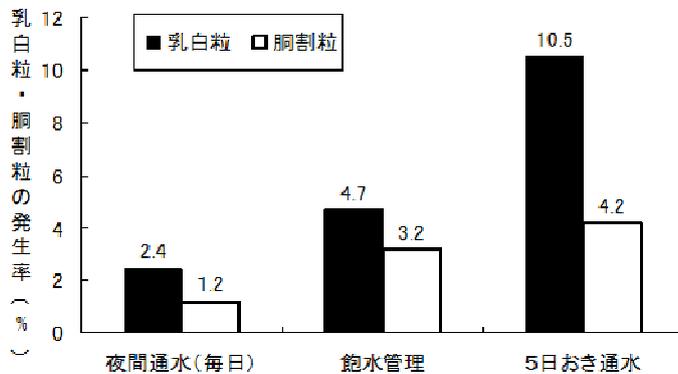


図 出穂後の水管理が品質に及ぼす影響(石川農研)

※飽水管理(2~3日おきの通水で土壌を常に湿らせておく管理)では、夜間に毎日通水するほどの効果は得られないものの、5日おきの通水より、乳白粒・胴割粒の発生を抑えることができます。

農作業中の熱中症に注意、7月は熱中症予防強化月間です ~熱中症予防のポイント~

① 天気予報と体調のチェック

急に暑くなる日は要注意。体調不良時には無理をしないようにする。

② 涼しい服装・安全な作業環境

帽子で日差しを遮り、汗を逃しやすい服装で作業をする。

作業はできる限り二人以上で行う。建屋の中も風通しを良くする。

③ こまめな水分補給・こまめな休憩

のどが渇く前にこまめに水を飲む。こまめに涼しい場所で休憩する。